北九州工業高等専門学校	総合科学科	開講年度	平成29年度 (2017年度)

学科到達目標

準学士課程の教育目標
(A)技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者
①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。
(B)専門分野における基礎知識を身に付けた技術者
①専門分野における工学の基礎を理解できる。
②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。
(C)専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者
①実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
②機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて、データを収集し、処理できる。
③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。
(D)身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者
①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。
(E)多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者
①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
③英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。
(F)歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者
①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
③技術者としての役割と責任を認識できる。
(G)社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者
①健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																		担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前				後				前				後				前					
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	英語ＡⅣ	0064	履修単位	2													2	2						久保川 晴美,中村 嘉雄,東島 加奈	
一般	選択	基礎ネットワーキング	0065	学修単位	2													1	1						磯崎 裕臣,北園 優希,小清水 孝夫,日高 康展	
一般	選択	法学（社会選択）	0066	履修単位	1	――――――

一般	必修	近代文学	0158	履修単位	2											2	2					岩下 祥子,前田 知津子,安河内 敬太	
一般	必修	体育IV	0159	履修単位	2											2	2					濱田 臣二,大下 和茂,山本 浩二	
一般	選択	社会特論（一般総合選択）	0160	履修単位	1																	長谷川 洋史	
一般	選択	英語特論（一般総合選択）	0166	履修単位	1											2						東島 加奈	
一般	必修	英語C	0111	履修単位	2															2	2	伊藤 晃,中村 幸子	
一般	選択	応用ネットワーキング	0112	学修単位	2															1	1	日高 康展,福田 龍樹	
一般	選択	法学（社会選択）	0113	履修単位	1																	廣瀬 孝壽	
一般	選択	文化交流史（社会選択）	0114	履修単位	2															2	2	大熊 智之	
一般	選択	哲学・倫理学（社会選択）	0115	履修単位	2															2	2	安部 力	
一般	選択	文化地理学（社会選択）	0116	履修単位	2															2	2	白神 宏	
一般	選択	経済学（社会選択）	0117	履修単位	1																	吉村 英俊,福井 直人	

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語ＡⅣ

科目基礎情報

科目番号	0064	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	M:STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST（朝日出版）、Innovative Japanese Companies（松柏社）ESC:The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test（金星堂）		
担当教員	久保川 晴美,中村 嘉雄,東島 加奈		

到達目標

・TOEIC400点レベルの語彙を習得し、同レベルの英文読解ができる。
・TOEIC400点レベルのリスニングができる。
・英文読解に必要な基本的文法が理解できる。
・TOEICで400点相当の点数が取れる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	TOEIC400点レベルの語彙を習得し、同レベルの英文読解ができる。	TOEIC400点レベルの語彙を70%程度習得し、同レベルの英文読解が70%程度できる。	TOEIC400点レベルの語彙を50%未満しか習得できず、同レベルの英文読解もほとんどできない。
評価項目2	TOEIC400点レベルのリスニングができる。	TOEIC400点レベルのリスニングが70%程度できる。	TOEIC400点レベルのリスニングがほとんど理解できない。
評価項目3	英文読解に必要な基本的文法が理解できる。	英文読解に必要な基本的文法が70%程度理解できる。	英文読解に必要な基本的文法がほとんど理解できない。
評価項目4	TOEICで400点程度の得点を取ることができる。	TOEICで350点程度の得点を取ることができる。	TOEICで300点程度の得点を取ることができない。
評価項目(D) : Visual Aid	英語プレゼンテーションのVisual Aidsをわかりやすく、効果的に作ることができる。	英語プレゼンテーションのVisual Aidsを概ね、わかりやすく、効果的に作ることができる。	英語プレゼンテーションのVisual Aidsをわかりやすく、効果的に作ることができない。
評価項目(D): 英語プレゼンテーション	英語プレゼンテーションのノウハウを十分理解し、英語を活用・発音できる。	英語プレゼンテーションのノウハウを概ね理解し、英語を活用・発音できる。	英語プレゼンテーションのノウハウを理解し、英語を活用・発音できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 E③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。

教育方法等

概要	M:本授業では、TOEICに対応できる読解力、リスニング力、語彙力の増強を図りながら、総合的英語力を向上させることを目的とする。将来も自力で英語学習を継続していくために、自分に適した英語学習方法を探究することも目指す。 ESC:本授業では、TOEICに対応できる読解力、リスニング力、語彙力の増強を図りながら、総合的英語力を向上させることを目的とする。将来も自力で英語学習を継続していくために、自分に適した英語学習方法を探究する。 D: 本授業では、英語プレゼンテーションの初歩的な知識、アメリカ文化の基本的な理解を通して、リスニング力、語彙力の増強を図りながら、総合的英語力を向上させることを目的とする。将来も自力で英語学習を継続していくために、自分に適した英語学習方法を探究することも目指す。英語プレゼンテーションでは、いままでの英語能力を活用し実践力も身につける。
授業の進め方・方法	M:テキストの問題を授業で確認する中で、語彙や文法などを音読やペアワークを通して、定着を図る。授業では教科書以外に工学系の英文を利用してさまざまな内容の英語に触れることもある。授業に関連した内容を中心に小テストを行う。 ESC:1. 事前に自宅で解いてきた問題を授業で確認する。音読やペアワークを通して、定着を図る。 2. 授業では教科書以外にCNNやTEDなど、インターネットを視聴して様々な内容の英語に触れる。 3. 授業に関連した内容を中心に小テストを行う。 D: 1. 事前に自宅で予習を行い、音読やペアワーク、グループ学習を通して定着と発展を図る。 2. アメリカ映画も活用し、アメリカの基本的な文化・歴史について理解を深める。 3. 授業に関連した内容の小テスト、英語プレゼンテーションの作成と発表を行う。
注意点	教科書音声ファイルは各自ダウンロードして、予習・復習に活用する。 D: 予習を必ず行うこと。辞書を必ず持ってくること。積極的に英語を話す姿勢を示すこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	M:Eating Out (1) 、サイバーダイン株式会社 ESC:授業ガイダンスUnit 1 Travel D: 授業ガイダンス Unit 1, グループ分け	M:動詞（1） ESC:英語学習の意義、予習復習の仕方 D: 英語プレゼンテーションの意義
		2週	M:Eating Out (2) 、サイバーダイン株式会社 ESC:Unit 1 Travel D: Unit 2	M:動詞（1） ESC:時制 D: Cellphoneの危険性からプレゼンテーションの構成を学ぶ
		3週	M:Travel (1)、株式会社ミライセンス ESC:Unit 2 Dining Out D: Unit 2	M:動詞（2） ESC:主述の一致 D: Cellphoneの危険性からプレゼンテーションの構成を学ぶ
		4週	M:Travel (2)、株式会社ミライセンス ESC:Unit 2 Dining Out, Unit 3 Media D: Unit 3	M:動詞（2） ESC:能動態・受動態 D: Climate Changeからプレゼンテーションの構成を学ぶ
		5週	M:Amusement (1)、フリュー株式会社 ESC:Unit 3 Media D: Unit 3	M:品詞 ESC:接続表現 D: Climate Changeからプレゼンテーションの構成を学ぶ

		6週	M:Amusement (2)、フリュー株式会社 ESC:Fill in the Blanks, Vocabulary Quiz, Dictation D: Unit 4	M:品詞 ESC:各場所での英語表現 D: Food Issuesからプレゼンテーションの構成を学ぶ
		7週	M:Meetings (1)、マリンバイオテクノロジー株式会社 ESC:Fill in the Blanks, Vocabulary Quiz, Dictation D: Unit 4	M:分詞 ESC:各場所での英語表現 D: Food Issuesからプレゼンテーションの構成を学ぶ
		8週	中間試験	1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
	2ndQ	9週	M:Meetings (2)、アサヒ飲料株式会社 ESC:試験問題解答, Unit 4　Entertainment D: Unit 5	M:分詞 ESC:動名詞・不定詞 D: Unit 5　効果的な英語プレゼンテーションの構成、表現について学ぶ、プレゼンテーション内容の検討、構成
		10週	M:Personnel (1)、アサヒ飲料株式会社 ESC:Unit 4　Entertainment D: Unit 6	M:不定詞と動名詞（１） ESC:接続表現 D: Visual Aidの作り方を学ぶ、各プレゼンテーションの構成、発表原稿作成
		11週	M:Personnel (2)、株式会社キーストーンテクノロジー ESC:Unit 5　Purchasing D: Unit 7	M:不定詞と動名詞（１） ESC:代名詞 D: プレゼンテーションの評価、着眼点を学ぶ、visual aid プレゼンテーション原稿の作成
		12週	M:Shopping (1)、株式会社キーストーンテクノロジー ESC:Unit 6　Clients D: 英語プレゼンテーション発表会	M:不定詞と動名詞（２） ESC:答えの推測
		13週	M:Shopping (2)、三菱重工業株式会社 ESC:Fill in the Blanks D: 英語プレゼンテーション発表会	M:不定詞と動名詞（２） ESC:品詞
		14週	M:Advertisement、富士フィルム・ホールディングス株式会社 ESC:Vocabulary Quiz, Dictation D: 英語プレゼンテーション発表会	M:仮定法 ESC:各場所での英語表現、語彙増強
		15週	定期試験	9～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	定期試験内容についての解説	定期試験の内容を理解する。
後期	3rdQ	1週	M:Daily Life (1)、株式会社アシックス ESC:Unit 7　Recruiting D: Unit 1, Super Size Me (2004)	M:受動態 ESC:品詞 D: アメリカのファストフード
		2週	M:Daily Life (2)、株式会社アシックス ESC:Unit 7　Recruiting, Unit 8　Personnel D: Unit 2, Super Size Me (2004)	M:受動態 ESC:語彙 D: アメリカのファストフード
		3週	M:Office Work (1)、シヤチハタ株式会社 ESC:Unit 8　Personnel D: Unit 3, The Apartment (1960)	M:代名詞 ESC:品詞 D: アメリカのモダン文化
		4週	M:Office Work (2)、シヤチハタ株式会社 ESC:Unit 9　Advertising D: Unit 4, The Apartment (1960)	M:代名詞 ESC:比較 D: アメリカのモダン文化
		5週	M:Business (1)、アイシン精機株式会社 ESC:Unit 9　Advertising, Fill in the Blanks D: Unit 5, City Lights (1931)	M:数量詞 ESC:文選択 D:　アメリカのモダン文化
		6週	M:Business (2)、アイシン精機株式会社 ESC:Fill in the Blanks D: Unit 6, City Lights (1931)	M:数量詞 ESC:各場所での英語表現 D：アメリカのモダン文化
		7週	M:Traffic (1)、任天堂株式会社 ESC:Vocabulary Quiz, Dictation D: Unit 7, 前期のまとめ	M:接続詞 ESC:語彙増強
		8週	中間試験	1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
	4thQ	9週	M:Traffic (2)、株式会社タニタ ESC:試験問題解答、Unit 10　Meetings D: Unit 9, The Matrix (1999)	M:接続詞 ESC:前置詞
		10週	M:Finance and Banking (1)、株式会社タニタ ESC:Unit 10　Meetings D: Unit 10, The Matrix (1999)	M:前置詞 ESC:文選択
		11週	M:Finance and Banking (2)、AuthaGraph株式会社 ESC:Unit 11　Finance D: Unit 11, Smoke (1995)	M:前置詞 ESC:接続詞 D: 人種、階級、都市
		12週	M:Media (1)、AuthaGraph株式会社 ESC:Unit 12　Offices D: Unit 12, Smoke (1995)	M:語彙 ESC:接続詞・前置詞 D:　人種、階級、都市
		13週	M:Media (2)、オリンパス株式会社 ESC:Fill in the Blanks D: Unit 13, 15	M:語彙 ESC:詳細情報、各場所での英語表現
		14週	M:Health and Welfare、オリンパス株式会社 ESC:Vocabulary Quiz, Dictation D: 後期のまとめ	M:Useful Expression ESC:各場所での英語表現、語彙増強
		15週	定期試験	9～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	定期試験内容についての解説	定期試験の内容を理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	1	前1
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	1	前1
				英語の発音記号を見て、発音できる。	1	前1
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	1	前1
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	前1
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	前1
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	前1
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	1	前1
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	1	前1
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	1	前1
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2	前1
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前1
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	前1
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	前1
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	前1
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前1
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前1
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	2	前1
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	前1
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2	前1
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	前1

評価割合

	試験	TOEIC-IP	課題・小テスト	単語テスト	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	200	0	60	0	0	0	260
M:基礎的能力	60	2.5	37.5	0	0	0	60
ESC:基礎的能力	70	0	30	0	0	0	100
D:基礎的能力	70	0	30	0	0	0	100

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎ネットワーキング

科目基礎情報

科目番号	0065	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	「徹底攻略 Cisco CCNA/CCENT教科書 ICND1編」 株式会社ソキウス・ジャパン(インプレスジャパン)		
担当教員	磯崎 裕臣,北園 優希,小清水 孝夫,日高 康展		

到達目標

1. OSI参照モデルの基本事項について理解できる。
2. TCP/IPプロトコルの基本事項について理解できる。
3. IPアドレスの基本事項について理解できる。B①, C①, SB①, SC①
4. 各担当で1つ記入

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
	OSI参照モデルを完全に理解し、それぞれの階層の役割について詳細に説明できる。	OSI参照モデルを理解し、それぞれの階層の基本的役割について簡単に説明できる。	OSI参照モデルを説明できない。
	TCP/IPプロトコルについて体系的に理解し、各階層の役割とそれに属する各プロトコルについて詳細に説明できる。	TCP/IPプロトコルについて基本事項を理解し、各階層の役割とそれに属する各プロトコルについてある程度説明できる。	TCP/IPプロトコルについて説明できない。
	IPアドレスを体系的に理解し、複雑なIPネットワークの説明ができる	IPアドレスを理解し、基本的な事項について説明できる	IPアドレスを説明できない
	各担当で1つ記入	各担当で1つ記入	各担当で1つ記入

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	急速なITの普及によりネットワークの設計者や管理者が著しく不足しており、その育成が急務となっている。本講義では、ネットワークの基本原理と現在の標準であるTCP/IPプロトコルの理解を目的とし、将来的に資格を取得できるレベルの実力を養成することを目指す。
授業の進め方・方法	授業のほとんどをe-learningにより行う。
注意点	e-learningで授業を進めるので、出席やレポート等の提出について、スライドでの指示をよく見ておくこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	学習の目的が理解できる。
		2週	OSI参照モデルに関する知識	OSI参照モデルの意味、構成を説明できる。
		3週	OSI参照モデル各層の役割	OSI参照モデル各層の役割を説明できる。
		4週	イーサネットの概要	イーサネットの概要を説明できる。
		5週	ネットワークトポロジ、接続メディア	代表的なトポロジであるバス型、リング型、スター型トポロジを説明できる。代表的な伝送メディアである同軸ケーブル、ツイストペアケーブル、光ファイバケーブルを説明できる。
		6週	CSMA/CD方式	CSMA/CDのアクセス制御方式を説明できる。
		7週	ネットワークデバイス	階層ごとのネットワークデバイスとその特徴を説明できる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	ケーブリング	ネットワークを構成するために必要な各種ケーブルについて説明できる。
		10週	２進法の復習	IPアドレスやサブネットマスクを扱う準備として２進数から10進数などへの変換、またその逆の変換ができる。
		11週	TCP/IPプロトコルスタック	OSI参照モデルと対比させてTCP/IPプロトコルスタックの構成を説明できる。
		12週	インターネット層のプロトコル	インターネット層の３つのプロトコル（IP、ARP、ICMP）について説明できる。
		13週	トランスポート層のプロトコル	トランスポート層の２つのプロトコル（TCP、UDP）について説明できる。
		14週	ポート番号、パケット	ポート番号の役割について説明できる。パケットの構成について説明できる。
		15週	期末試験	
		16週		
後期	3rdQ	1週	IPアドレッシング（１）	IPアドレスの概要を説明できる
		2週	IPアドレッシング（２）	ブロードキャストIPアドレスやプライベートIPアドレスといた特殊なアドレスの概要を説明できる
		3週	NATおよびPAT（１）	NATの概要を説明できる
		4週	NATおよびPAT（２）	PATの概要を説明できる
		5週	サブネットワーク	サブネットワークの概要を説明できる
		6週	IPアドレスの計算（１）	サブネットマスク、サブネットアドレス、ホストアドレス数の計算ができる

		7週	IPアドレスの計算（２）	サブネットマスク、サブネットアドレス、ホストアドレス数の計算ができる
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	IPルーティング	ルーティングの基礎、スタティックルートとデフォルトルート、ルーティングプロトコルに関する知識 ・RIPとIGRP
		10週	IPルーティング	ルーティングの基礎、スタティックルートとデフォルトルート、ルーティングプロトコルに関する知識 ・RIPとIGRP
		11週	IPルーティング	ルーティングの基礎、スタティックルートとデフォルトルート、ルーティングプロトコルに関する知識 ・RIPとIGRP
		12週	IPルーティング	ルーティングの基礎、スタティックルートとデフォルトルート、ルーティングプロトコルに関する知識 ・RIPとIGRP
		13週	IPルーティング	ルーティングの基礎、スタティックルートとデフォルトルート、ルーティングプロトコルに関する知識 ・RIPとIGRP
		14週	IPルーティング	ルーティングの基礎、スタティックルートとデフォルトルート、ルーティングプロトコルに関する知識 ・RIPとIGRP
		15週	定期試験	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	演習、課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	30	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	法学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0066	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	前期・後期	週時間数	4
教科書/教材	「民法」、小川富之著、八千代出版		
担当教員	廣瀬 孝壽		

到達目標

1. 基礎的な法の特性を理解できる。
2. 具体的な問題を法的に説明することができる。
3. 法の目的を理解し、公正な社会について考えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	基礎的な法の特性を十分に理解できる。	基礎的な法の特性をほぼ理解できる。	基礎的な法の特性を理解できない。
評価項目2	具体的な問題を法的に十分に説明することができる。	具体的な問題を法的にほぼ説明することができる。	具体的な問題を法的に説明することができない。
評価項目3	法の目的を理解し、公正な社会について十分に考えることができる。	法の目的を理解し、公正な社会についてほぼ考えることができる。	法の目的を理解し、公正な社会について考えることができない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
準学士課程の教育目標 F③ 技術者としての役割と責任を認識できる。
準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	社会生活と法との関係を理解し、法が形成された歴史的意義を学習する。具体的問題の法的な解決手段を考え、問題点を探し、より良い社会にするために必要な法のあり方を積極的に考える。
授業の進め方・方法	具体的事件を取り上げ、関連する法概念を解説するので、より良い解決策を考えること。法律の条文は膨大であり、また、法改正によって変化し続けるものであるため、教えてもらうという意識よりも、法的に思考できる社会人になることを意識して学習すること。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
			地歴・公民	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。	2	

評価割合

	試験	レポートなど	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	文化交流史（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0067	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	「謎とき日本近現代史 (講談社現代新書)」、野島 博之著、講談社		
担当教員	大熊 智之		

到達目標

1）東アジア地域の近代史の流れが理解できる。
2）東アジア世界の成り立ちについて理解できる。
3）東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景が理解できる。
4）文化の多様性について理解し、考察することができる。
5）歴史に対する自らの意見を持つことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	東アジア地域の近代史の流れが十分に理解できる。	東アジア地域の近代史の流れがほぼ理解できる。	東アジア地域の近代史の流れが理解できない。
評価項目2	東アジア世界の成り立ちについて十分に理解ができる。	東アジア世界の成り立ちについてほぼ理解ができる。	東アジア世界の成り立ちについて理解ができない。
評価項目3	東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景が十分に理解できる。	東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景がほぼ理解できる。	東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景が理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E①　歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F①　歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G①　健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G②　社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	東アジアの近現代史の理解を行う。特にその中での国同士の交流史に重きを置いてこれまで習ってきた歴史的知識を深めると同時に、他国の歴史教育に触れることによって違いを理解することが目的である。 これまで以上に隣国と接することとなるだろうこれからの社会を生きていくための力を育てていく。
授業の進め方・方法	教科書をもとに映像資料を含めた資料・史料を使い授業を展開する。タイムリーな話題に関するプリントなどは適宜配布予定であるが、教科書・ノートを毎回準備すること。世界の出来事や話題に対して興味を持ち授業に参加されたい。 講義以外にもディベートや発表の場を設け、自らの歴史観を育てていけるように、授業に参加されたい。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	アヘン戦争、明治維新（1）	アヘン戦争は世界にどう伝わったのか、台湾出兵、征韓論
		2週	アヘン戦争、明治維新（2）	台湾出兵
		3週	アヘン戦争、明治維新（3）	征韓論
		4週	日清戦争と台湾割譲（1）	脱亜論、台湾総督
		5週	日清戦争と台湾割譲（2）	霧社事件、華夷体制
		6週	日清戦争と台湾割譲（3）	明成皇后
		7週	日露戦争と朝鮮の植民地化（1）	日本海海戦
		8週	日露戦争と朝鮮の植民地化（2）	東遊運動、アジア民族運動
	2ndQ	9週	日露戦争と朝鮮の植民地化（3）	日韓協約
		10週	辛亥革命と民族運動（1）	孫文、梅屋庄吉
		11週	辛亥革命と民族運動（2）	大アジア主義演説、宮崎滔天
		12週	辛亥革命と民族運動（3）	民族自決、米騒動
		13週	満州事変と「満州国」（1）	柳条湖事件、溥儀
		14週	満州事変と「満州国」（2）	東三省、塘沽停戦協定
		15週	満州事変と「満州国」（3）	五族協和、王道楽土
		16週	定期試験	1～15週までの内容を網羅した試験により、、授業内容の理解の定着を図る。
後期	3rdQ	1週	日中戦争（1）	盧溝橋、援蒋ルート
		2週	日中戦争（2）	第二次上海事変
		3週	日中戦争（3）	南京政府、重慶政府
		4週	アジア・太平洋戦争と国共内戦（1）	ハルノート
		5週	アジア・太平洋戦争と国共内戦（2）	南進論と北進論、光復軍
		6週	アジア・太平洋戦争と国共内戦（3）	内戦で戦った日本人、中台での国共内戦の描かれ方の違いは
		7週	朝鮮戦争とベトナム戦争（1）	2つの主義、東西冷戦
		8週	朝鮮戦争とベトナム戦争（2）	南ベトナム解放軍
	4thQ	9週	朝鮮戦争とベトナム戦争（3）	日米安全保障条約
		10週	国交正常化（1）	戦後補償、文化大革命
		11週	国交正常化（2）	朴正熙、金日成
		12週	国交正常化（3）	ホーチミン

		13週	改革・開放と民主化（1）	4つの現代化
		14週	改革・開放と民主化（2）	2・28事件、光州事件
		15週	改革・開放と民主化（2）	学生運動
		16週	定期試験	1～15週までの内容を網羅した試験により、、授業内容の理解の定着を図る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	2	前4
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	前9
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。	2	

評価割合

	試験	課題・発表	リアクション・ペーパー	合計
総合評価割合	70	20	10	100
基礎的能力	70	20	10	100

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学・倫理学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0068	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	改訂版「いのちとすまいの倫理学」（工藤和男著、晃洋書房、2010年）		
担当教員	安部 力		

到達目標

1:文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。
2:哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
3:諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。
4:諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。
5:現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
6:社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
7:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。
8:国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解し、自己の将来について生き方を模索できる。	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解し説明できる。	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できていない。
現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解し、より良い社会の構築を模索できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解し説明できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できていない。
:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解し問題解決の模索ができる。	:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解し説明できる。	:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できていない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 F③　技術者としての役割と責任を認識できる。
準学士課程の教育目標 G①　健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G②　社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	本授業は、技術者として備えるべき意識や、技術と社会の関係について、哲学(倫理) 的思索を深めることを目的とする。価値観が多様化している現代社会において、人は自由に自己の価値観を選択し、構築出来る。そのような状況の中、「人として」「技術者として」生きていく上で何が必要なのか。様々な哲学思想・宗教の思考様式を紹介しながら、それを自己のものとして理解し、活用できることを目指す。
授業の進め方・方法	哲学における様々な思考様式を用い、「現代社会における倫理的問題」について考察し、討論する。毎時間配付する資料と教科書を事前に読み、論点を把握した上で授業に参加することを必要とする。また、授業ではグループワーク形式によるディベート・プレゼンテーションなどを行うため、「開かれた思考」と主体的な参加姿勢、また他者の意見を傾聴する社会的素養を求める。
注意点	「自己の意見」の表現を必ず行う機会を設けるため、普段から身の回りや社会の動きなど時事問題に関心を持って、授業に臨むこと。また、自己と他者の価値観の根拠や、その相違をみつめた上で、自己の方向性を創出できること。そのために必要な問題意識や様々な思考方法を理解し、身に付けていることも求める。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス：様々な視角と思考方法（倫理学的ジレンマなど）	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
		2週	哲学(倫理学) の射程１：懐疑的自己と自己証明	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
		3週	哲学(倫理学) の射程２：クリティカルシンキング（基準と価値観）	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。
		4週	哲学(倫理学) の射程３：科学的仮説の自己矛盾と限界（思考実験）	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。
		5週	哲学(倫理学) の射程４：運命論と自由意思について	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。
		6週	哲学(倫理学) の射程５：運命論と自由意思についてのディベート	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。
		7週	哲学(倫理学) の射程６：時空の最小単位とパラドックス	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		8週	哲学(倫理学) の射程７：量子論と宇宙論の現代社会に於ける影響と展開	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
	2ndQ	9週	中間試験	
		10週	環境倫理の思想的背景	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
		11週	環境倫理学の基礎１：産業発展と環境破壊への関心	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
		12週	環境倫理学の基礎２：環境問題解決への様々な視座と課題	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。

		13週	食を取り巻く倫理的課題１：個人レベルでの食事情の変化とその問題（社会的背景とその解法）	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。
		14週	食を取り巻く倫理的課題２：国家レベルでの食糧問題（自給率と輸入率が抱える問題とその解法）	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。
		15週	食を取り巻く倫理的課題３：地球規模の食糧問題及びその解決に向けた国際協力について（人口爆発と耕地面積の減少、水質悪化）	国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。
		16週	期末試験	
後期	3rdQ	1週	生命倫理学：生と死の定義及びその考察意義	諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。
		2週	「死」を扱う技術１：「死亡時刻」の変化と社会的背景	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		3週	「死」を扱う技術２：脳死臓器移植の社会的背景と倫理的課題	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		4週	「死」を扱う技術３：脳死臓器移植に関するグループワークとプレゼンテーション	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		5週	「死」を扱う技術４：安楽死問題の社会的背景と倫理的課題	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		6週	「死」を扱う技術５：安楽死問題がもたらす社会に関するグループワークとプレゼンテーション	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		7週	「死」を扱う技術６：安楽死問題と脳死臓器移植がもたらす社会的影響について	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		8週	生物学的死、社会的死、「ひととしての死」を考える視座	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
	4thQ	9週	中間試験	
		10週	「ひとのいのち」を考える大前提	諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。
		11週	「生」を扱う技術１：「ひとのはじまり」と法的定義	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		12週	「生」を扱う技術２：出生前診断と人工妊娠中絶に関するグループワーク	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		13週	「生」を扱う技術３：不妊治療問題の社会的背景と「こども」の人権について	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		14週	「生」を扱う技術４：遺伝子治療と遺伝子ドーピング。人体改造がもたらす社会的影響について	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		15週	生命とそれに関連する技術の進展がもたらす社会に対する視座	文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	前1,後11
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	前1
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	前2,前6,前10
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	前15
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	前1,前5,前15,後10
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2	前12
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	前1,後1
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。	2	後1

評価割合

	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	20	40	10	0	0	100
基礎的能力	30	20	40	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	文化地理学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0069	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	使用しない		
担当教員	白神 宏		

到達目標

文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができる。
世界の食文化の現状について説明できる。
食文化が形成された背景について考察し、説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができる。	文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することがおおむねできる。	文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができない。
評価項目2	世界の食文化の現状について説明できる。	世界の食文化の現状についておおむね説明できる。	世界の食文化の現状について説明できない。
評価項目3	食文化が形成された背景について考察し、説明できる。	食文化が形成された背景についておおむね考察し、説明できる。	食文化が形成された背景について考察、説明できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	世界の諸民族は、それぞれ多様な文化を育んできた。また、文化は伝播や他文化との接触により絶えず変化してきた。国際社会の中で活躍する技術者として、多様な文化の存在を理解し尊重することは重要である。本授業では、食文化を素材として、文化の形成や伝播について理解を深めることを目的とする。
授業の進め方・方法	日本と世界の地理・歴史に関する基礎的知識を前提とする。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	日本の食文化（１）	今日の日本の食文化の特色について説明できる。
		3週	日本の食文化（２）	日本の伝統的食文化の形成過程について説明できる。
		4週	日本の食文化（３）	明治期以降の日本の食文化の変容過程について説明できる。
		5週	朝鮮半島の食文化（１）	高麗の時代までの朝鮮半島の食文化の特色について説明できる。
		6週	朝鮮半島の食文化（２）	高麗の時代以降の著線半島の食文化の変化過程について説明できる。
		7週	朝鮮半島の食文化（３）	朝鮮半島の食事作法の特色について説明できる。
		8週	稲作の起源と伝播（１）	稲の植物的特性と稲作の期限について説明できる。
	2ndQ	9週	稲作の起源と伝播（２）	稲作の伝播の過程について説明できる。
		10週	米とその料理法（１）	米の料理法と地域的特性との関連について説明できる。
		11週	米とその料理法（２）	米の料理法の発展・伝播の過程について説明できる。
		12週	もち文化（１）	もち利用の地域的特性について説明できる。
		13週	もち文化（２）	アジア諸地域のもち文化の特性について説明できる。
		14週	照葉樹林文化（１）	照葉樹林地域の地理的特性と文化的特色について説明できる。
		15週	期末試験	1～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	期末試験内容についての解説	期末試験の内容を理解する。
後期	3rdQ	1週	照葉樹林文化（２）	照葉樹林文化の諸要素について地域的特性を説明できる。
		2週	照葉樹林文化（３）	照葉樹林文化の諸要素について地域的特性を説明できる。
		3週	麦文化とその伝播	麦の栽培地域の地理的特性と料理法の変遷について説明できる。
		4週	麦の料理法～パン（１）	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。
		5週	麦の料理法～パン（２）	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。
		6週	麦の料理法～パン（３）	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。
		7週	麦の料理法～麺（１）	麺の系列と伝播地域の過程について説明できる。
		8週	麦の料理法～麺（２）	世界各地の麺文化の特色について説明できる。

	4thQ	9週	麦の料理法～麺（３）	世界各地の麺文化の特色について説明できる。
		10週	麦の料理法～麺（４）	世界各地の麺文化の特色について説明できる。
		11週	世界の乳利用（１）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		12週	世界の乳利用（２）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		13週	世界の乳利用（３）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		14週	世界の乳利用（４）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		15週	まとめ	
		16週	定期試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経済学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0070	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	前期・後期	週時間数	4
教科書/教材	使用しない		
担当教員	吉村 英俊,福井 直人		

到達目標

1）資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。
2）現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。
3）株式会社ないし企業経営のしくみ、およびその今日的動向について、理論と現実の双方を理解できる。
4）地域・国内・海外の経済情勢を踏まえたうえで、今後の経済や経営のあり方について自分なりの意見を主張することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について正しく理解できる。	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割についておおまかに理解できる。	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できない。
評価項目2	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて正しく解できる。	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについておおまかに解できる。	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて解できない。
評価項目3	経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報を適切に理解できる。	経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報をほぼ理解できる。	経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報を適切に理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
準学士課程の教育目標 F③ 技術者としての役割と責任を認識できる。
準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	技術者においては、自らの専門知識を活かすために、経済や経営、法律などの社会科学に関する知識を習得する必要がある。 本授業では、経済・経営に関する基礎的知識を学び、現在国内外で繰り広げられている経済情勢を理解し、説明できるようにする。
授業の進め方・方法	とくに基礎知識は必要としないが、本授業を機会に新聞やニュースを見るように心掛けて欲しい。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	
			公民	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
			地歴・公民	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。	2	

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本文学論（一般総合選択）

科目基礎情報

科目番号	0071	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	前期・後期	週時間数	4
教科書/教材			
担当教員	岩下 祥子		

到達目標

1、日本語・日本文学について積極的に関心を持つことができる。
2、必要な情報を収集・整理し、的確に文章にまとめることができる。
3、相手の意見を理解・要約し、建設的かつ論理的に自らの考えを構築できる。
4、社会で使用される言葉を広く習得し、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	日本語・日本文学について積極的に関心を持ち、読書習慣を持つ。	日本語・日本文学について関心を持つことができる。	日本語・日本文学について関心を持つことができない。
評価項目2	必要な情報を収集・整理し、的確に文章にまとめ、要点を押さえた資料作成ができる。	必要な情報を収集・整理し、的確に文章にまとめることができる。	必要な情報を収集・整理ができず、文章にまとめることができない。
評価項目3	相手の意見を理解・要約し、建設的かつ論理的に自らの考えを構築できる。	相手の意見を理解・要約し、それに対する自らの考えを構築できる。	相手の意見を理解ができず、それに対する自らの考えを構築できない。
評価項目4	社会で使用される言葉を広く習得し、それらを実践する社会的コミュニケーションの場で相手と意思疎通ができる。	社会で使用される言葉を習得し、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	社会で使用される言葉を習得できず、それらを適切に用いることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	実践的技術者に必要な言語コミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。授業では、日本語・日本語文学について学び、関心を高め、資料を調査し、文章でまとめ、口頭発表を行うなどして、文章表現能力・プレゼンテーション能力を養う。
授業の進め方・方法	日本語文学の作品鑑賞を通じて抽出された課題や疑問点について、資料を調査し、文章でまとめ、口頭発表を行う。 受講者は全員テキストを読み、発表内容・態度について意見・感想を述べる。
注意点	配布するプリント類を整理すること。文献調査を丁寧にすること。他の人の発表に積極的に関わり意見交換を行うこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3	
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3	
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3	
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	3	
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3	
				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	3	
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3	
				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	3	
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	3	

				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	35	10	5	0	0	100
基礎的能力	50	35	10	5	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	体育特論（一般総合選択）

科目基礎情報

科目番号	0072	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	前期・後期	週時間数	4
教科書/教材	教養としてのスポーツ・身体文化、大修館書店		
担当教員	濵田 臣二		

到達目標

・武道とスポーツについて歴史的観点からそれらの特徴を理解する。
・最新のスポーツ科学に基づいた知識を深め、実際の場面で活用できるようにする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	健康についての最新の知識を理解し、運動の必要性について回答できる。	運動の必要性医について、自分の考えを回答できる。	健康についての理解が不足し、運動の重要性について理解できない。
評価項目2	武道とスポーツについて、その相違点と共通点を明確に回答できる。	武道とスポーツについて、それらの違いを回答できる。	武道とスポーツについて、それらの特徴を理解できない。
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	スポーツ・武道・体育に関する最新の理論および研究成果から、生涯体育に通じる武道やスポーツの科学的理論を理解させるとともに、健康やトレーニングに関する実習によって合理的に健康・体力の増進を図る資質や能力を育てる。
授業の進め方・方法	通常は講義・演習（発表）を主として、理解を深めるために必要に応じて実習を行う。 授業内容に関する課題についてレポートを提出させる。
注意点	実習の際は運動ができるウェア・シューズを準備すること。 貴重品の管理は各自で行うこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	5	0	5	0	0	100
基礎的能力	90	5	0	5	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学演習（一般総合選択）

科目基礎情報

科目番号	0073	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	すべてプリント		
担当教員	山田 康隆		

到達目標

1．行列・行列式の標準問題に対応し、問題を解くことができる。
2．微分積分の標準問題に対応し、問題を解くことができる。
3．微分方程式の標準問題に対応し、問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	行列・行列式の大学編入レベルの問題が解ける。	行列・行列式の標準問題が解ける。	行列・行列式の基本問題が解けない。
評価項目2	微積分の大学編入レベルの問題が解ける。	微積分の標準問題が解ける。	微積分の基本問題が解けない。
評価項目3	微分方程式の大学編入レベルの問題が解ける。	微分方程式の標準問題が解ける。	微分方程式の基本問題が解けない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	３年までに学んだ数学を総合的に復習しながら、理解を深めるために発展的内容に踏み込んで、専攻科や大学への進学にふさわしい数学力を身につける。
授業の進め方・方法	毎回プリント問題を課す。これは纏めて提出することになる。さらに小テストを毎回行い、総合的な評価を下す。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ベクトルと1次式	方向ベクトル、法線ベクトルを使って平面、空間の幾何問題を解くことができる。
		2週	行列式（演算）	行列式の計算ができる。
		3週	行列式（方程式）	行列式の形式をした方程式を解くことができる。
		4週	行列式（次元）	行列式が零となる条件を理解できる。
		5週	行列（演算）	行列の演算ができる。
		6週	行列（方程式）	はき出し法で方程式を解くことができる。
		7週	行列（線形写像）	次元定理を理解することができる。
		8週	行列（固有値）	固有値問題を解くことができる
	2ndQ	9週	求積法（面積）	積分を用いて図形の面積を求めることができる。
		10週	求積法（長さ・重心）	積分を用いて曲線の長さや図形の重心を求めることができる。
		11週	求積法（体積・表面積）	積分を用いて立体の体積や表面積を求めることができる。
		12週	広義積分	ガンマ関数を使いこなすことができる。
		13週	微分方程式（分離形）	分離形型の微分方程式を解くことができる。
		14週	微分方程式（1階線形）	1階線形微分方程式を解くことができる。
		15週	微分方程式（2階線形）	2階線形微分方程式を解くことができる。
		16週	微分方程式（非線形）	非線形の微分方程式を解くことができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	
				因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3	
				分数式の加減乗除の計算ができる。	3	
				実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	3	
				平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3	
				解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3	
				因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3	
				簡単な連立方程式を解くことができる。	3	
				無理方程式・分数方程式を解くことができる。	3	
				1次不等式や2次不等式を解くことができる。	3	
				1元連立1次不等式を解くことができる。	3	
				基本的な2次不等式を解くことができる。	3	
				恒等式と方程式の違いを区別できる。	3	
				2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	3	

				分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	3	
				無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				関数のグラフと座標軸との共有点を求めることができる。	3	
				指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
				対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	
				対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
				三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。	3	
				角を弧度法で表現することができる。	3	
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	3	
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
				2点間の距離を求めることができる。	3	
				内分点の座標を求めることができる。	3	
				通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。	3	
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	3	
				簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	3	
				積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。	3	
				簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	3	
				等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	
				総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	
				不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	
				無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	
				ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3	
				平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3	
				平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3	
				問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3	
				空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3	
				行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積、行列の積を求めることができる。	3	
				行列の和・差・数との積の計算ができる。	3	
				行列の積の計算ができる。	3	
				逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。	3	
				行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	3	
				線形変換の定義を理解し、線形変換を表す行列を求めることができる。	3	
				合成変換や逆変換を表す行列を求めることができる。	3	
				平面内の回転に対応する線形変換を表す行列を求めることができる。	3	
				簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	
				微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	
				導関数の定義を理解している。	3	
				積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることがができる。	3	
				合成関数の導関数を求めることができる。	3	
				三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	
				逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3	
				関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	
				極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3	
				簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3	
				2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3	

				関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3	
				不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	
				置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	
				定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	
				微積分の基本定理を理解している。	3	
				定積分の基本的な計算ができる。	3	
				置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。	3	
				分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3	
				簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	
				簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3	
				簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3	
				2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	3	
				いろいろな関数の偏導関数を求めることができる。	3	
				合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3	
				簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3	
				偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。	3	
				2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	3	
				2重積分を累次積分になおして計算することができる。	3	
				極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3	
				2重積分を用いて、簡単な立体の体積を求めることができる。	3	
				微分方程式の意味を理解し、簡単な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	3	
				基本的な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	3	
				簡単な1階線形微分方程式を解くことができる。	3	

評価割合

	試験	小テスト・レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学特論（一般総合選択）

科目基礎情報

科目番号	0074	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「新応用数学」大日本図書		
担当教員	山田 康隆		

到達目標

1．複素空間を把握し、種々の複素関数を理解する。
2．複素微分ができる
3．複素積分の値を求めることができる。
4．複素積分を応用して実積分問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	複素関数の軌跡を追跡できる。	複素関数の大きさ・偏角を求めることができる。	複素関数が把握できない。
評価項目2	正則関数かどうかの判定ができ、偏微分方程式を解いて、正則関数を構成できる。	正則関数であるかどうか判定できる。	正則関数であるかどうか判定できない。
評価項目3	コーシーの積分表示と留数定理の同値性が把握でき、複素積分問題に十分対応できる。	公式、留数定理を使って複素積分を求めることができる。	複素積分が求められない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	3年次までに学習した微分積分学の延長として複素関数論を学ぶ。微分積分を複素数の範囲に拡張することの有効性と展開の広がりを実感してもらいたい。」
授業の進め方・方法	各セクションの講義のあとにレポートを課す。（全5回）
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	複素数と複素平面	複素数の複素平面での位置をつかむことができる。
		2週	複素関数（指数関数・三角関数）	指数関数・三角関数を複素平面上で認識できる。
		3週	複素関数（双曲線関数・対数関数）	双曲線関数・対数関数を複素平面上で認識できる。
		4週	n乗根・点列	n乗根を求めることができる。
		5週	複素微分と正則関数	複素関数が正則であるかどうか判別できる。
		6週	複素積分I	複素積分における積分経路を理解し、積分計算ができる。
		7週	複素積分II	積分経路が閉曲線の場合の複素積分の計算ができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	コーシーの積分定理	コーシーの積分定理を理解し積分計算に利用できる。
		10週	コーシーの積分表示	コーシーの積分表示を理解し積分計算に利用できる。
		11週	テーラー展開と収束性	正則関数のテーラー展開表示ができ、収束半径を求めることができる。
		12週	ローラン展開と特異点	ローラン展開を理解し、特異点の判別ができる。
		13週	留数定理	留数計算ができ、留数定理を使って複素積分ができる。
		14週	実積分への応用I	複素積分を利用して実積分の計算ができる。
		15週	実積分への応用II	複素積分を利用して実積分の計算ができる。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	
				因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3	
				分数式の加減乗除の計算ができる。	3	
				実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	3	
				平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3	
				複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	3	
				解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3	
				因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3	
				簡単な連立方程式を解くことができる。	3	
				無理方程式・分数方程式を解くことができる。	3	
				1次不等式や2次不等式を解くことができる。	3	
				1元連立1次不等式を解くことができる。	3	
				基本的な2次不等式を解くことができる。	3	

				恒等式と方程式の違いを区別できる。	3	
				2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	3	
				分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	3	
				無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				関数のグラフと座標軸との共有点を求めることができる。	3	
				累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	3	
				指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
				対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	
				対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
				三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。	3	
				角を弧度法で表現することができる。	3	
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	3	
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
				2点間の距離を求めることができる。	3	
				内分点の座標を求めることができる。	3	
				通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。	3	
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	3	
				簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	3	
				積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。	3	
				簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	3	
				等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	
				総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	
				不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	
				無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	
				ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3	
				平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3	
				平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3	
				問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3	
				空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3	
				簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	
				微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	
				導関数の定義を理解している。	3	
				積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることがができる。	3	
				合成関数の導関数を求めることができる。	3	
				三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	
				逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3	
				関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3	
				不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	
				置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	
				定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	
				微積分の基本定理を理解している。	3	
				定積分の基本的な計算ができる。	3	
				置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。	3	
				分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3	

				簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	
				簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3	
				簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3	
				2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	3	
				いろいろな関数の偏導関数を求めることができる。	3	
				合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3	
				簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3	
				偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。	3	
				2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	3	
				2重積分を累次積分になおして計算することができる。	3	
				極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3	
				2重積分を用いて、簡単な立体の体積を求めることができる。	3	
				微分方程式の意味を理解し、簡単な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	3	
				基本的な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	3	
				簡単な1階線形微分方程式を解くことができる。	3	

評価割合

	試験	小テスト・レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語演習（一般総合選択）

科目基礎情報

科目番号	0075	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「しごとのミニマム英語」シリーズ③　英語のプレゼン直前5日間の技術 (アルク、愛場吉子著)		
担当教員	東島 加奈		

到達目標

・英語によるプレゼンテーションの基本構成を理解し、スライドや英文スクリプトを作成することができる。
・相手に伝わるような話し方ができる。
・TOEICで400点程度の得点をとることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	英語によるプレゼンテーションの基本構成を理解し、スライドや英文スクリプトを作成することができる。	英語によるプレゼンテーションの基本構成を７割以上理解し、スライドや英文スクリプトを作成することができる。	英語によるプレゼンテーションの基本構成を5割未満しか理解できず、スライドや英文スクリプトを作成することができない。
評価項目2	相手に７割以上伝わるような話し方ができる。	相手に５割以上伝わるような話し方ができる。	相手に伝わるような話し方ができず、相手に3割未満しか通じない。
評価項目3	TOEICで400点程度の得点をとることができる。	TOEICで350点程度の得点を取ることができる。	TOEICで300点程度の得点を取ることができない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E①　歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 E③　英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。

教育方法等

概要	教科書のモデルを参考に、英語のプレゼンテーションで用いられる基本的構成や表現、作り方を学び、スピーキング力、プレゼンテーション力を伸ばす。テキストは定番の型を使って5日間（合計約15時間）でプレゼンテーションを準備する実際的な手順を軸に構成されている。スピーキング力、語彙力の増強を図りながら、総合的英語力の向上を目指す。
授業の進め方・方法	１．授業冒頭でプレゼンテーションで用いられる基本表現の音読練習を行う。スピーキングテストを期間中2回実施する。 ２．教科書のサンプルで英語プレゼンテーションの基本的構成や表現、作り方を学ぶ。 ３．グループでプレゼンテーションのスライドと英文スクリプトを作成し、期間中2回発表する。 ４．期間中参考としてTEDを数回視聴する。
注意点	プレゼンテーションで用いられる基本表現は、テキスト付属のCDを用いて自宅で計画的に練習が必要である。 グループでスライドや英文スクリプトを作成し発表するため、病気等で欠席する場合はグループメンバーにも連絡し、進行を妨げないこと。 題材はビジネスプレゼンテーションであるが、考え方や英語の表現はアカデミックプレゼンテーションにも応用できる。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス　プレゼンの構成	プレゼンの種類、基本構成
		2週	Introduction	自己紹介、プレゼンの目的、アウトライン
		3週	Main Body (1)	話を進める、データについて述べる
		4週	Main Body (2)	描写、比較、提案の表現
		5週	Conclusion テストの練習	Main Bodyで伝えた内容の要約
		6週	プレゼンの基本フレーズ、スピーキングテスト	授業や自宅で計画的に練習した成果を確認
		7週	発表	グループで作成したプレゼンを表現
		8週	中間試験 発表	グループで作成したプレゼンを表現、他のグループからも学ぶ。
	4thQ	9週	試験解説	スピーキングテストやグループプレゼンの振り返り、新たな目標設定
		10週	プレゼンの作成	テーマ選択 グループで決定
		11週	プレゼンの作成	役割分担 スライドや英文スクリプトの作成
		12週	プレゼンの作成	スライドや英文スクリプトの作成 内容強化
		13週	テストの練習 プレゼンの作成	デリバリー強化
		14週	プレゼンの基本フレーズ スピーキングテスト Q&A	授業や自宅で計画的に練習した成果を確認
		15週	定期試験	グループで作成したプレゼンを表現、他のグループからも学ぶ。
		16週	試験解説 発表	スピーキングテストやグループプレゼンの振り返り、今後の目標設定。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				英語の発音記号を見て、発音できる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14

				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14

評価割合

	試験	小テスト課題				その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	近代文学

科目基礎情報

科目番号	0158	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	「ちくま小説選」、紅野謙介、清水良典編		
担当教員	岩下 祥子,前田 知津子,安河内 敬太		

到達目標

1、文学作品に描かれた人物・情景・心情の表現とその効果を読みとることができる。
2、文学作品と人間・社会・自然との関係性を理解することができる。
3、自らの考えを論理的に組み立て、適切な表現を用いて論述することができる。
4、他者の意見を理解しつつ、自分の表現を明確に発表することができる。
5、日本語文章能力検定準2級程度の日本語文章能力を身につけることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	文学作品に描かれた人物・情景・心情の表現とその効果を読みとり、説明ができる。	文学作品に描かれた人物・情景・心情の表現とその効果を読みとることができる。	文学作品に描かれた人物・情景・心情の表現とその効果を読みとることができない。
評価項目2	文学作品と人間・社会・自然との関係性を理解することができ、説明ができる。	文学作品と人間・社会・自然との関係性を理解することができる。	文学作品と人間・社会・自然との関係性を理解することができない。
評価項目3	自らの考えを論理的に組み立て、適切な表現を用いて論述し、質疑に対して応答できる。	自らの考えを論理的に組み立て、適切な表現を用いて論述することができる。	自らの考えを論理的に組み立て、適切な表現を用いて論述することができない。
評価項目4	他者の意見を理解しつつ、自分の表現を明確に発表し、その差異を今後の思考に活かすことができる。	他者の意見を理解しつつ、自分の表現を明確に発表することができる。	他者の意見を理解できず、自分の表現を明確に発表することもできない。
評価項目5	日本語文章能力検定準2級程度の日本語文章能力を身につけ、場に応じた適切な文章が書ける。	日本語文章能力検定準2級程度の日本語文章能力を身につけることができる。	日本語文章能力検定準2級程度の日本語文章能力を身につけることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	実践的技術者に必要な言語表現の読解力・思考力の向上を図ることを目的とする。授業では、日本近代文学に関する基本的な知識を理解し、個々の作品の表現を柔軟に読み取る読解力を養う。また、読解することで得られた意見・感想を的確に言語化するために、語句学習・漢字学習・文章表現学習を行う。
授業の進め方・方法	文学作品を読み、作品の読解について全体で討議し、意見交換を行う。作品に関連する課題でレポート課題を出す場合もある。 就職活動に関連する書類や手紙の書き方のマナーの習得を目指す。適時、小テスト・ワーク等で学習到達度の確認を行う。
注意点	取り上げる作品を必ず読んだ上で受講すること。配布するプリント類を整理すること。問いに対して簡潔明快な答えで応答すること。辞書・参考書を活用し、積極的に調査やレポート作成を行ってほしい。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標と概要を理解する
		2週	明治期の文学	明治期における主な文学作品と歴史事項について理解する。
		3週	明治期の文学	明治期における代表的な文学者の活動を理解する。
		4週	作品読解	明治期の作品を読み、小説読解の基本的なアプローチを学ぶ。
		5週	作品読解	明治期の作品を読み、小説読解について自分の考えをまとめ、意見を述べる。
		6週	表現	語句・構成を工夫した文章表現を学び、その効果を理解する。
		7週	表現	語句・構成を工夫した文章表現を実践する。
		8週	中間試験	１～７週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
	2ndQ	9週	試験解説	試験の内容を理解し、不正解だったところはなぜ不正解だったのかを考える。
		10週	大正期の文学	大正期における主な文学作品と歴史事項について理解する。
		11週	大正期の文学	大正期における代表的な文学者の活動を理解する。
		12週	作品読解	大正期の作品を読み、小説読解の基本的なアプローチを学ぶ。
		13週	作品読解	大正期の作品を読み、小説読解について自分の考えをまとめ、意見を述べる。
		14週	表現	語句・構成を工夫した文章表現を学び、実践する。
		15週	期末試験	１０～１４週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	試験解説	試験の内容を理解し、不正解だったところはなぜ不正解だったのかを考える。
後期	3rdQ	1週	昭和期の文学	昭和期における主な文学作品と歴史事項について理解する。

		2週	昭和期の文学	昭和期における文学者の活動の流れを理解する。
		3週	作品読解	昭和期の作品を読み、小説読解の基本的なアプローチを学ぶ。
		4週	作品読解	昭和期の作品を読み、小説読解について自分の考えをまとめ、意見を述べる。
		5週	表現	語句・構成を工夫した文章表現を学び、その効果を理解する。
		6週	表現	語句・構成を工夫した文章表現を実践する。
		7週	中間試験	１～７週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		8週	試験解説	試験の内容を理解し、不正解だったところはなぜ不正解だったのかを考える。
	4thQ	9週	現代の文学	現代の主な文学作品と歴史事項について理解する。
		10週	現代の文学	現代の作家や文学の有り様について学び、理解する。
		11週	作品読解	現代の作品を読み、小説読解の基本的なアプローチを学ぶ。
		12週	作品読解	現代の作品を読み、小説読解について自分の考えをまとめ、意見を述べる。
		13週	表現	語句・構成を工夫した文章表現を学び、その効果を理解する。
		14週	表現	語句・構成を工夫した文章表現を実践する。
		15週	定期試験	９～１４週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	試験解説	試験の内容を理解し、不正解だったところはなぜ不正解だったのかを考える。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3	
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3	
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3	
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	3	
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3	
				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	3	
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3	
				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	3	
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	3	
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	2	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合

	試験	レポート	態度		ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	0	100
基礎的能力	70	20	10	0	0	0	100

専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	体育IV

科目基礎情報

科目番号	0159	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	濵田 臣二,大下 和茂,山本 浩二		

到達目標

1 選択した種目の運動技術を向上させることができる
2 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、協力して主体的に取り組むことができる
3 ルールやゲームの運営方法などを理解し、自己の役割に対する責任を果たしながら安全に留意して活動することができる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	技術の名称や行い方を理解し、運動技術を向上させることができる	運動技術を身につけることができる	自主的に取り組むことができず運動技術の向上がみられない
評価項目2	楽しさや喜びを深く味わうことができ、仲間と互いに協力して主体的に取り組むことができる	楽しさや喜びを味わうことができ、自主的に取り組むことができる	仲間と協力ができず積極的に取り組むことができない
評価項目3	約束事を守り、安全に留意しながら互いに協力して自らの責任を果たすことができる	約束事を守り、安全に留意しながら自らの責任を果たすことができる	約束事を守ることができず、自己の責任を果たすことができない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて持続的に運動ができる資質や能力を育てる。
授業の進め方・方法	単元の特性や学生の実態に応じて、体育理論およびスポーツテストと関連づけて行う。また、必要に応じて視覚的教材も利用する。
注意点	学校指定のウェアー、シューズを準備すること。更衣、移動や休み時間内に完了すること。貴重品の管理は各自で行うこと（必要があれば活動場所に持参して担当教員に申し出ること）。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	種目選択１（ネット型・ベースボール型）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を選択して運動技能を高める
		2週	種目選択１（ネット型・ベースボール型）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を選択して運動技能を高める
		3週	種目選択１（ネット型・ベースボール型）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を選択して運動技能を高める
		4週	種目選択１（ネット型・ベースボール型）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を選択して運動技能を高める
		5週	種目選択１（ネット型・ベースボール型）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を選択して運動技能を高める
		6週	種目選択１（ネット型・ベースボール型）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を選択して運動技能を高める
		7週	種目選択１（ネット型・ベースボール型）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を選択して運動技能を高める
		8週	種目選択１（ネット型・ベースボール型）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を選択して運動技能を高める
	2ndQ	9週	種目選択１（種目替え）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		10週	種目選択１（種目替え）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		11週	種目選択１（種目替え）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		12週	種目選択１（種目替え）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		13週	種目選択１（種目替え）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		14週	種目選択１（種目替え）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		15週	種目選択１（種目替え）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		16週	種目選択１（種目替え）	バレーボール・ソフトボール・テニスの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
後期	3rdQ	1週	種目選択２（ゴール型・ネット型）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を選択して運動技能を高める
		2週	種目選択２（ゴール型・ネット型）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を選択して運動技能を高める
		3週	種目選択２（ゴール型・ネット型）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を選択して運動技能を高める
		4週	種目選択２（ゴール型・ネット型）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を選択して運動技能を高める

		5週	種目選択２（ゴール型・ネット型）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を選択して運動技能を高める
		6週	種目選択２（ゴール型・ネット型）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を選択して運動技能を高める
		7週	種目選択２（ゴール型・ネット型）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を選択して運動技能を高める
		8週	種目選択２（ゴール型・ネット型）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を選択して運動技能を高める
	4thQ	9週	種目選択２（種目替え）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		10週	種目選択２（種目替え）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		11週	種目選択２（種目替え）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		12週	種目選択２（種目替え）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		13週	種目選択２（種目替え）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		14週	種目選択２（種目替え）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		15週	種目選択２（種目替え）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を替えて選択し運動技能を高める
		16週	種目選択２（種目替え）	バスケットボール・サッカー・バドミントンの中から種目を替えて選択し運動技能を高める

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	運動技能	発表	相互評価	協力的態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	40	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	40	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	社会特論（一般総合選択）

科目基礎情報

科目番号	0160	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	前期・後期	週時間数	4
教科書/教材	使用しない		
担当教員	長谷川 洋史		

到達目標

1.人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点から理解できる。
2.日本の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できる。
3.日本史と世界史の本質と技術・経済的側面を理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観観点から十分に理解できる。	人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観観点からほぼ理解できる。	人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観観点から理解できない。
評価項目2	日本史と世界史の本質と技術・経済的側面を十分に理解できる。	日本史と世界史の本質と技術・経済的側面をほぼ理解できる。	日本史と世界史の本質と技術・経済的側面を理解できない。
評価項目3	近代社会の成立過程とその歴史的位置付け、産業革命の歴史的意義を十分に理解できる。	近代社会の成立過程とその歴史的位置付け、産業革命の歴史的意義をほぼ理解できる。	近代社会の成立過程とその歴史的位置付け、産業革命の歴史的意義を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	「私たちの生きる現代社会の原点となる近代社会 (工業社会・市場経済社会・資本制社会) とは、いかなる過程で生まれ、それは人類史上いかなる位置付けにあるのか?」ということの基本的理解を深めたい。 また、北九州は、弥生期では水稲耕作発祥となった遠賀川沿岸の立屋敷遺跡、近現代期では「日本の鉄の世界」を象徴する、戦前アジアで初めての銑鋼一貫工場となった八幡製鉄所など、大きな歴史的意義を持つ事跡が多数存在する。そうした北九州の産業的特質の理解も深めたい。特に、「鉄の技術史」に関しては毎回少しずつ連続して紹介していきたい。
授業の進め方・方法	写真・パネルを多用してビジュアルで理解しやすい授業にしてゆく。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語特論（一般総合選択）

科目基礎情報

科目番号	0166	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	ゼロからスタート　英語で話すトレーニングBOOK（Jリサーチ出版、安河内哲也　デイビッド・セイン)		
担当教員	東島 加奈		

到達目標

・写真や資料を英語で表現、説明できる。
・制限時間に合わせて英語で自己紹介ができる。
・各セクションの語彙を８割以上理解できる。
・TOEICで400点程度の得点をとることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	写真や資料を8割以上英語で表現、説明できる。大きな空白を作らずに制限時間に合わせて話すことができる。	写真や資料を６割以上英語で表現、説明できる。多少空白はあるが相手に通じる。	写真や資料を４割未満しか英語で表現、説明できない。空白が多く、相手に内容が伝わらない。
評価項目2	制限時間に合わせて英語で自己紹介ができる。大きな空白を作らずに50秒以上話すことができる。	制限時間に合わせて英語で自己紹介ができる。多少空白はあるが３０秒以上話すことができる。	制限時間に合わせて英語で自己紹介ができない。空白が多く、相手に内容がほとんど伝わらない。
評価項目3	各セクションの語彙を８割以上理解できる。	各セクションの語彙を６割以上理解できる。	各セクションの語彙を４割未満しか理解できない。
評価項目４	TOEICで400点程度の得点をとることができる。	TOEICで350点程度の得点を取ることができる。	TOEICで300点程度の得点を取ることができない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E①　歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 E③　英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。

教育方法等

概要	代表的な英語スピーキングテストで共通して求められる「基礎発話力」「伝達力」「論理的展開力」の養成を目標とし、様々な練習問題を通じて話す練習をする。不足しがちな「話す練習」をすることで、リスニング力や読解力を含めた総合的英語力の向上を目指す。
授業の進め方・方法	毎回授業の冒頭でペアで第3章の練習をする。その後、中間テスト以前は主に第4章の練習、中間テスト以後は第5章の練習を中心に授業を進める。スピーキングテストを期間中2回実施する。
注意点	授業中ペアワークを含むため、英語を話そうとする積極的な態度が求められる。 付属のCDやE-CAT練習用動画を用いて自宅でも練習が必要である。 教科書は「E-CAT」という新しいスピーキングテストのフォーマットと難易度に沿っている。学習成果を測るためにE-CATの受験を推奨する。英検やTEAP、 GTEC、 TOEIC Speaking Test対策としても活用できる。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス 第1章 第2章	英語スピーキング練習の意義 英語で自己紹介
		2週	第3章 第4章	自分の周りを英語で説明 写真や資料を英語で説明 問題演習
		3週	第3章 第4章	自分の周りを英語で説明 写真や資料を英語で説明 問題演習"
		4週	第3章 第4章	自分の周りを英語で説明 写真や資料を英語で説明 問題演習
		5週	第3章 第4章	自分の周りを英語で説明 写真や資料を英語で説明 問題演習"
		6週	スピーキングテストの練習 第2章、第3章、第4章	英語で自己紹介 自分の周りを英語で説明 写真や資料を英語で説明
		7週	スピーキングテスト	授業や自宅での練習成果確認
		8週	中間試験 スピーキングテスト	授業や自宅での練習成果確認
	2ndQ	9週	試験解説	テストや自宅学習の振り返り、新たな目標設定
		10週	第5章	英語スピーチの構造
		11週	第5章	30秒スピーチ
		12週	第5章	60秒スピーチ
		13週	スピーキングテストの練習 第5章	30秒スピーチ 60秒スピーチ
		14週	スピーキングテスト	授業や自宅での練習成果確認
		15週	前期末試験 スピーキングテスト	授業や自宅での練習成果確認
		16週	試験解説	テストや自宅学習の振り返り、今後の目標設定

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				英語の発音記号を見て、発音できる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14

				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14

評価割合

	試験	課題小テスト	課題	態度		その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語C

科目基礎情報

科目番号	0111	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	MED : Successful keys to the TOEIC listening and reading test INTRO [2nd Edition]桐原書店、Mark D. Stafford, Successful keys to the TOEIC listening and reading test 1 [4th Edition]桐原書店、Mark D. Stafford, 世界を読むメディア英語入門2016、金星堂、村尾純子他 SC:"First Time Trainer for the TOEIC(r) TEST, Revised Edition " Chizuko Tsumatori, Masumi Tahira Cengage 2017		
担当教員	伊藤 晃,中村 幸子		

到達目標

MED: ・TOEIC500点程度の英語を聞き取ることができる。 ・基本的な文法の知識を身につけ、活用することができる。 ・辞書を使って時事的な英語を読むことができる。
SC: ・TOEIC　500点程度の英語を聞き取ることができる。 ・TOEIC TESTに頻出する語彙を理解する事が出来る。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	各課の内容を８割以上理解できる。	各課の内容を７割以上理解できる。	各課の内容を６割以上理解できない。
評価項目2	各課の英文法を８割以上理解できる。	各課の英文法を７割以上理解できる。	各課の英文法を６割以上理解できない。
評価項目3	各課の語彙を８割以上理解できる。	各課の語彙を７割以上理解できる。	各課の語彙を６割以上理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。

教育方法等

概要	MED:リスニングとリーディングを中心に、英語力の向上を目指す。科学・技術の分野における英語に慣れるとともに、語彙と基本文法に関する知識を充実させ、基礎的な英語力を増強する。「読み」「書き」「聞く」を継続しながらも「話す」を加えた総合的な語学力の完成を目指し、自己表現力充実を目指す。 SC:TOEICの出題形式に慣れる。TOEIC TESTスコアの向上と基礎的な英語力の定着を目指します。
授業の進め方・方法	MED:授業の前半は、TOEIC形式の問題演習を行う。授業の後半は、幅広い分野の様々なニュースを取り上げた英文記事を読む。 SC:TOEIC TESTの２大セクション、リスニングとリーディングを中心にした演習問題を行っていきます。必ず予習して授業に出て下さい。Listening part　の音声は各自ダウンロードし、十分に活用して下さい。クラスでの自発的な発表を高く評価します。
注意点	指示された予習復習を必ず行ってから授業に参加すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	MED:授業の進め方、評価方法、英語の学び方等について説明する SC:Pre-Test と授業の進め方や評価方法等についての説明	MED:授業の進め方、評価方法等の理解 SC:授業の進め方、評価方法等の理解
		2週	MED:Unit 1 Daily Life、Chapter 1 Traveling with Your Dog SC:Unit 1　Shopping	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 3／Part 5／Part 7 SC:動詞
		3週	MED:Unit 2 Places、Chapter 2Please Take Just a Nibble SC:Unit 1　Shopping	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 4／Part 5／Part 7 SC:動詞
		4週	MED:Unit 3 People、Chapter 3Let’s Go to the Museum Chapter 4A Fork in the Road SC:Unit 2　Daily Life	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 3／Part 5／Part 7 SC:名詞
		5週	MED:Unit 4 Travel、 Chapter 3 Let’s Go to the Museum SC:Unit 2　Daily Life	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 4／Part 5／Part 6 SC:名詞
		6週	MED:Unit 5 Business、Chapter 4 A Fork in the Road SC:Unit 3　Transportation	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 3／Part 5／Part 7 SC:代名詞
		7週	MED:Unit 6 Office　Unit 7 Technology、Chapter 4 A Fork in the Road SC:Unit 3　Transportation, Review　1	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 4／Part 5／Part 6 SC:代名詞、これまでの復習
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	MED:試験解説、Unit 8 Personnel、Chapter 5 Products by Women for Women Chapter SC:試験解説、Unit 4　Jobs	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 3／Part 5／Part 7 SC:形容詞と副詞
		10週	MED:Unit 9 Management、Chapter 5 Products by Women for Women Chapter SC:Unit 4　Jobs	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 3／Part 5／Part 7 SC:形容詞と副詞
		11週	MED:Unit 10 Purchasing、Chapter 6 Japan’s Tokusatsu Hero Gone Global SC:Unit 5　Meals	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 4／Part 5／Part 7 SC:時制
		12週	MED:Unit 11 Finances、Chapter 7 Go for the Gold with New Wheelchairs! SC:Unit 5　Meals	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 3／Part 5／Part 7 SC:時制

		13週	MED:Unit 12 Media　Unit 13 Entertainment、Chapter 8 Manzai for Education SC:Unit 6　Communication	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 3／Part 4／Part 5／Part 6／Part 7 SC:受動態・分詞
		14週	MED:Unit 14 Health　Unit 15 Restaurants、Chapter 9Your Car Might Be Hacked SC:Unit 6　Communication, Review 2	MED:TOEIC Part 1／Part 2／Part 3／Part 4／Part 5／Part 6／Part 7 SC:受動態・分詞、これまでの復習
		15週	前期末試験	
		16週	試験解説	
後期	3rdQ	1週	MED:Unit 1 Daily Life、Chapter 10How Much Is This Autograph? SC:Unit 7 Fun	MED:品詞の違い　広告を読む SC:動名詞と不定詞
		2週	MED:Unit 2 Places、Chapter 11Math Drills for Cambodian Pupils SC:Unit 7 Fun	MED:カードを読む SC:動名詞と不定詞
		3週	MED:Unit 3 People、Chapter 12Flying Causes Problems SC:Unit 8 Office Work	MED:代名詞　図表と手紙を読む (1) SC:助動詞
		4週	MED:Unit 4 Travel、Chapter 13A Romantic Bridge between… SC:Unit 8 Office Work	MED:案内を読む SC:助動詞
		5週	MED:Unit 5 Business、Chapter 14Microbes Decide Your Health SC:Unit 9 Meeting	MED:動詞の形　通知・メモを読む SC:比較
		6週	MED:Unit 6 Office、Chapter 15“Light” for a Buddhist Temple SC:Unit 9 Meeting	MED:手紙を読む SC:比較
		7週	MED:Unit 7 Technology Unit 8 Personnel SC:Review 3	MED:語い関連　図表と手紙を読む (2) 記事を読む (1) SC:これまでの復習
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	MED:試験解説、Unit 9 Management、Chapter 16Advanced Health Checker SC:試験解説、Unit 10 Travel	MED:接続詞　通知を読む SC:前置詞
		10週	MED:Unit 10 Purchasing、Chapter 17Do You Know Where Santa Lives? SC:Unit 10 Travel	MED:手紙とレシートを読む SC:前置詞
		11週	MED:Unit 11 Finances、Chapter 18Is It Fair or Unfair? SC:Unit 11 Finance	MED:時制　レシピを読む SC:接続詞
		12週	MED:Unit 12 Media、Chapter 19The Warmest Race in the Coldest Land SC:Unit 11 Finance	MED:記事を読む (2) SC:接続詞
		13週	MED:Unit 13 Entertainment、Chapter 20Solar Cells for the Near Future SC:Unit 12 Business	MED:前置詞　Ｅメールを読む SC:関係詞
		14週	MED:Unit 14 Health Unit 15 Restaurants,Chapter 20 Solar Cells for the Near Future SC:Unit 12 Business, Review 4	MED:FAXを読む、熟語　アンケート・申込用紙を読む SC:関係詞、これまでの復習
		15週	定期試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	課題・小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	150	50	0	0	0	0	200
基礎的能力MED	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力SC	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	応用ネットワーキング

科目基礎情報

科目番号	0112	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	徹底攻略 Cisco CCNA/CCENT教科書 ICND1編[640-802J][640-822J]対応、 インプレスジャパン、ソキウス・ジャパン		
担当教員	日高 康展,福田 龍樹		

到達目標

1. CLIを用いてルータの設定をすることができる。
2. RIPを用いて小規模ネットワークの構築をすることができる。
3. アクセスリストについて理解できる。
4. アクセスリストをインターフェースに適用し、パケットフィルタリングを行うことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ルータが適切な動作をするようにCLIを用いて設定をすることができる	CLIを用いてルータの設定をすることができる	CLIを使うことができない
評価項目2	RIPを用いて小規模ネットワークの構築を行うことができる	RIPを用いてルータの接続をすることができる	RIPについて理解していない
評価項目3	アクセスリストについて完全に理解し、その役割と設定方法について詳しく説明できる。	アクセスリストについて理解し、その役割と設定方法についてある程度説明できる。	アクセスリストについて説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	基礎ネットワーキングで学んだ事項を演習で確認する。実際にルータを操作して、パスワードリカバリー、TFTP、RIP、ACLについて学習する。またUTPケーブルの構造についても理解する。
授業の進め方・方法	原則として基礎ネットワーキングの単位取得者を対象とする。演習が中心である。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンスおよび基礎知識の確認	基礎ネットワーキングで学んだことを再確認する
		2週	CLIの操作１	CLIを用いてルータの情報を知ることができる
		3週	CLIの操作２	CLIを用いてルータの簡単な設定をすることができる
		4週	パスワードの設定	パスワードによりセキュリティが高まることを理解し、実際にパスワードを設定することができる
		5週	パスワードリカバリ	パスワードが分からないルータの復旧作業をすることができる
		6週	小テスト	１～６週の内容について理解し、実際にルータの操作をすることができる
		7週	静的ルーティング１	静的ルーティングの仕組みを理解しルータを設定することができる
		8週	静的ルーティング２	静的ルーティングを用いて２台以上のルータを接続することができる
	2ndQ	9週	RIPの使用１	RIPの動作について理解しRIPの設定ができる
		10週	RIPの使用２	RIPを用いて２台以上のルータを接続することができる
		11週	RIPの使用３	小規模なネットワークの設定ができる
		12週	RIPの使用４	小規模なネットワーク同士を接続することができる
		13週	TFTPによるIOSのバックアップ	TFTPを用いてIOSのバックアップができる
		14週	TFTPによるIOSのリストア	TFTPを用いてIOSのリストアをすることができる
		15週	小テスト	７～１４週の内容について理解し、実際にルータの操作をすることができる
		16週		
後期	3rdQ	1週	アクセスリストによるパケットのフィルタリング	アクセスリストによるパケットフィルタリングの概要を理解できる。
		2週	ルータの動作	アクセスリストが適用されたルータの挙動について理解できる。
		3週	アクセスリスト作成時の注意事項	処理の順番、暗黙の拒否などアクセスリスト作成時に注意すべき事項について理解できる。
		4週	ワイルドカードマスク	ワイルドカードマスクの役割と使用方法について理解できる。
		5週	標準IPアクセスリストの作成	標準IPアクセスリストの作成方法について理解できる。
		6週	拡張IPアクセスリストの作成	拡張IPアクセスリストの作成方法について理解できる。
		7週	アクセスリストのインターフェースへの適用	作成した標準 IPアクセスリスト及び拡張IPアクセスリストをインターフェースへ適用する方法を理解できる。

		8週	中間試験	１～７週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
	4thQ	9週	試験内容についての解説	中間試験の内容を理解する。
		10週	ネットワークの構築１	PC、スイッチングハブ、ルータをケーブルで正しく接続し、パケットフィルタリングの実験環境を構築できる。
		11週	ネットワークの構築２	各PC、インターフェースに適切なIPアドレスを設定し、LANを構築することができる。
		12週	標準IPアクセスリストによるパケットフィルタリング	標準IPアクセスリストを作成、適用し、パケットフィルタリングを行うことができる。
		13週	拡張IPアクセスリストによるパケットフィルタリング1	拡張IPアクセスリストを作成、適用し、パケットフィルタリングを行うことができる。
		14週	拡張Pアクセスリストによるパケットフィルタリング2	拡張IPアクセスリストによってFTPなど特定のアプリケーションに対してパケットフィルタリングを行うことができる。
		15週	定期試験	９～１４週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	定期試験内容についての解説	定期試験の内容を理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	法学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0113	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	前期・後期	週時間数	4
教科書/教材	「民法」、小川富之著、八千代出版		
担当教員	廣瀬 孝壽		

到達目標

1. 基礎的な法の特性を理解できる。
2. 具体的な問題を法的に説明することができる。
3. 法の目的を理解し、公正な社会について考えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	基礎的な法の特性を十分に理解できる。	基礎的な法の特性をほぼ理解できる。	基礎的な法の特性を理解できない。
評価項目2	具体的な問題を法的に十分に説明することができる。	具体的な問題を法的にほぼ説明することができる。	具体的な問題を法的に説明することができない。
評価項目3	法の目的を理解し、公正な社会について十分に考えることができる。	法の目的を理解し、公正な社会についてほぼ考えることができる。	法の目的を理解し、公正な社会について考えることができない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
準学士課程の教育目標 F③ 技術者としての役割と責任を認識できる。
準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	社会生活と法との関係を理解し、法が形成された歴史的意義を学習する。具体的問題の法的な解決手段を考え、問題点を探し、より良い社会にするために必要な法のあり方を積極的に考える。
授業の進め方・方法	具体的事件を取り上げ、関連する法概念を解説するので、より良い解決策を考えること。法律の条文は膨大であり、また、法改正によって変化し続けるものであるため、教えてもらうという意識よりも、法的に思考できる社会人になることを意識して学習すること。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	レポートなど	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	文化交流史（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0114	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	「謎とき日本近現代史 (講談社現代新書)」、野島 博之著、講談社		
担当教員	大熊 智之		

到達目標

1）東アジア地域の近代史の流れが理解できる。
2）東アジア世界の成り立ちについて理解できる。
3）東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景が理解できる。
4）文化の多様性について理解し、考察することができる。
5）歴史に対する自らの意見を持つことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	東アジア地域の近代史の流れが十分に理解できる。	東アジア地域の近代史の流れがほぼ理解できる。	東アジア地域の近代史の流れが理解できない。
評価項目2	東アジア世界の成り立ちについて十分に理解ができる。	東アジア世界の成り立ちについてほぼ理解ができる。	東アジア世界の成り立ちについて理解ができない。
評価項目3	東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景が十分に理解できる。	東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景がほぼ理解できる。	東アジアの情勢、各国の文化的歴史的背景が理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E①　歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F①　歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G①　健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G②　社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	東アジアの近現代史の理解を行う。特にその中での国同士の交流史に重きを置いてこれまで習ってきた歴史的知識を深めると同時に、他国の歴史教育に触れることによって違いを理解することが目的である。 これまで以上に隣国と接することとなるだろうこれからの社会を生きていくための力を育てていく。
授業の進め方・方法	教科書をもとに映像資料を含めた資料・史料を使い授業を展開する。タイムリーな話題に関するプリントなどは適宜配布予定であるが、教科書・ノートを毎回準備すること。世界の出来事や話題に対して興味を持ち授業に参加されたい。 講義以外にもディベートや発表の場を設け、自らの歴史観を育てていけるように、授業に参加されたい。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	アヘン戦争、明治維新（1）	アヘン戦争は世界にどう伝わったのか、台湾出兵、征韓論
		2週	アヘン戦争、明治維新（2）	台湾出兵
		3週	アヘン戦争、明治維新（3）	征韓論
		4週	日清戦争と台湾割譲（1）	脱亜論、台湾総督
		5週	日清戦争と台湾割譲（2）	霧社事件、華夷体制
		6週	日清戦争と台湾割譲（3）	明成皇后
		7週	日露戦争と朝鮮の植民地化（1）	日本海海戦
		8週	日露戦争と朝鮮の植民地化（2）	東遊運動、アジア民族運動
	2ndQ	9週	日露戦争と朝鮮の植民地化（3）	日韓協約
		10週	辛亥革命と民族運動（1）	孫文、梅屋庄吉
		11週	辛亥革命と民族運動（2）	大アジア主義演説、宮崎滔天
		12週	辛亥革命と民族運動（3）	民族自決、米騒動
		13週	満州事変と「満州国」（1）	柳条湖事件、溥儀
		14週	満州事変と「満州国」（2）	東三省、塘沽停戦協定
		15週	満州事変と「満州国」（3）	五族協和、王道楽土
		16週	定期試験	1～15週までの内容を網羅した試験により、、授業内容の理解の定着を図る。
後期	3rdQ	1週	日中戦争（1）	盧溝橋、援蒋ルート
		2週	日中戦争（2）	第二次上海事変
		3週	日中戦争（3）	南京政府、重慶政府
		4週	アジア・太平洋戦争と国共内戦（1）	ハルノート
		5週	アジア・太平洋戦争と国共内戦（2）	南進論と北進論、光復軍
		6週	アジア・太平洋戦争と国共内戦（3）	内戦で戦った日本人、中台での国共内戦の描かれ方の違いは
		7週	朝鮮戦争とベトナム戦争（1）	2つの主義、東西冷戦
		8週	朝鮮戦争とベトナム戦争（2）	南ベトナム解放軍
	4thQ	9週	朝鮮戦争とベトナム戦争（3）	日米安全保障条約
		10週	国交正常化（1）	戦後補償、文化大革命
		11週	国交正常化（2）	朴正熙、金日成
		12週	国交正常化（3）	ホーチミン

		13週	改革・開放と民主化（1）	4つの現代化
		14週	改革・開放と民主化（2）	2・28事件、光州事件
		15週	改革・開放と民主化（2）	学生運動
		16週	定期試験	1～15週までの内容を網羅した試験により、、授業内容の理解の定着を図る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。	2	

評価割合

	試験	課題・発表・ディベート	リアクション・ペーパー	合計
総合評価割合	70	20	10	100
基礎的能力	70	20	10	100

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学・倫理学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0115	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	改訂版「いのちとすまいの倫理学」（工藤和男著、晃洋書房、2010年）		
担当教員	安部 力		

到達目標

1:文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。
2:哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
3:諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。
4:諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。
5:現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
6:社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
7:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。
8:国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解し、自己の将来について生き方を模索できる。	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解し説明できる。	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できていない。
現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解し、より良い社会の構築を模索できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解し説明できる。	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できていない。
:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解し問題解決の模索ができる。	:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解し説明できる。	:環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できていない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 F③　技術者としての役割と責任を認識できる。
準学士課程の教育目標 G①　健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G②　社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	本授業は、技術者として備えるべき意識や、技術と社会の関係について、哲学(倫理) 的思索を深めることを目的とする。価値観が多様化している現代社会において、人は自由に自己の価値観を選択し、構築出来る。そのような状況の中、「人として」「技術者として」生きていく上で何が必要なのか。様々な哲学思想・宗教の思考様式を紹介しながら、それを自己のものとして理解し、活用できることを目指す。
授業の進め方・方法	哲学における様々な思考様式を用い、「現代社会における倫理的問題」について考察し、討論する。毎時間配付する資料と教科書を事前に読み、論点を把握した上で授業に参加することを必要とする。また、授業ではグループワーク形式によるディベート・プレゼンテーションなどを行うため、「開かれた思考」と主体的な参加姿勢、また他者の意見を傾聴する社会的素養を求める。
注意点	「自己の意見」の表現を必ず行う機会を設けるため、普段から身の回りや社会の動きなど時事問題に関心を持って、授業に臨むこと。また、自己と他者の価値観の根拠や、その相違をみつめた上で、自己の方向性を創出できること。そのために必要な問題意識や様々な思考方法を理解し、身に付けていることも求める。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス：様々な視角と思考方法（倫理学的ジレンマなど）	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
		2週	哲学(倫理学) の射程１：懐疑的自己と自己証明	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。
		3週	哲学(倫理学) の射程２：クリティカルシンキング（基準と価値観）	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。
		4週	哲学(倫理学) の射程３：科学的仮説の自己矛盾と限界（思考実験）	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。
		5週	哲学(倫理学) の射程４：運命論と自由意思について	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。
		6週	哲学(倫理学) の射程５：運命論と自由意思についてのディベート	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。
		7週	哲学(倫理学) の射程６：時空の最小単位とパラドックス	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		8週	哲学(倫理学) の射程７：量子論と宇宙論の現代社会に於ける影響と展開	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
	2ndQ	9週	中間試験	
		10週	環境倫理の思想的背景	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
		11週	環境倫理学の基礎１：産業発展と環境破壊への関心	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。
		12週	環境倫理学の基礎２：環境問題解決への様々な視座と課題	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。

		13週	食を取り巻く倫理的課題１：個人レベルでの食事情の変化とその問題（社会的背景とその解法）	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。
		14週	食を取り巻く倫理的課題２：国家レベルでの食糧問題（自給率と輸入率が抱える問題とその解法）	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。
		15週	食を取り巻く倫理的課題３：地球規模の食糧問題及びその解決に向けた国際協力について（人口爆発と耕地面積の減少、水質悪化）	国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。
		16週	期末試験	
後期	3rdQ	1週	生命倫理学：生と死の定義及びその考察意義	諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。
		2週	「死」を扱う技術１：「死亡時刻」の変化と社会的背景	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		3週	「死」を扱う技術２：脳死臓器移植の社会的背景と倫理的課題	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		4週	「死」を扱う技術３：脳死臓器移植に関するグループワークとプレゼンテーション	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		5週	「死」を扱う技術４：安楽死問題の社会的背景と倫理的課題	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		6週	「死」を扱う技術５：安楽死問題がもたらす社会に関するグループワークとプレゼンテーション	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		7週	「死」を扱う技術６：安楽死問題と脳死臓器移植がもたらす社会的影響について	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		8週	生物学的死、社会的死、「ひととしての死」を考える視座	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
	4thQ	9週	中間試験	
		10週	「ひとのいのち」を考える大前提	諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。
		11週	「生」を扱う技術１：「ひとのはじまり」と法的定義	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		12週	「生」を扱う技術２：出生前診断と人工妊娠中絶に関するグループワーク	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		13週	「生」を扱う技術３：不妊治療問題の社会的背景と「こども」の人権について	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		14週	「生」を扱う技術４：遺伝子治療と遺伝子ドーピング。人体改造がもたらす社会的影響について	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。
		15週	生命とそれに関連する技術の進展がもたらす社会に対する視座	文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	前1,後11
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	前1
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	前2,前6,前10
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	前15
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	前1,前5,前15,後10
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2	前12
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	前1,後1
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。	2	後1

評価割合

	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	20	40	10	0	0	100
基礎的能力	30	20	40	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	文化地理学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0116	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	使用しない		
担当教員	白神 宏		

到達目標

文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができる。
世界の食文化の現状について説明できる。
食文化が形成された背景について考察し、説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができる。	文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することがおおむねできる。	文化に関心をもち、世界の多様な文化を尊重することができない。
評価項目2	世界の食文化の現状について説明できる。	世界の食文化の現状についておおむね説明できる。	世界の食文化の現状について説明できない。
評価項目3	食文化が形成された背景について考察し、説明できる。	食文化が形成された背景についておおむね考察し、説明できる。	食文化が形成された背景について考察、説明できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
準学士課程の教育目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	世界の諸民族は、それぞれ多様な文化を育んできた。また、文化は伝播や他文化との接触により絶えず変化してきた。国際社会の中で活躍する技術者として、多様な文化の存在を理解し尊重することは重要である。本授業では、食文化を素材として、文化の形成や伝播について理解を深めることを目的とする。
授業の進め方・方法	日本と世界の地理・歴史に関する基礎的知識を前提とする。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	日本の食文化（１）	今日の日本の食文化の特色について説明できる。
		3週	日本の食文化（２）	日本の伝統的食文化の形成過程について説明できる。
		4週	日本の食文化（３）	明治期以降の日本の食文化の変容過程について説明できる。
		5週	朝鮮半島の食文化（１）	高麗の時代までの朝鮮半島の食文化の特色について説明できる。
		6週	朝鮮半島の食文化（２）	高麗の時代以降の著線半島の食文化の変化過程について説明できる。
		7週	朝鮮半島の食文化（３）	朝鮮半島の食事作法の特色について説明できる。
		8週	稲作の起源と伝播（１）	稲の植物的特性と稲作の期限について説明できる。
	2ndQ	9週	稲作の起源と伝播（２）	稲作の伝播の過程について説明できる。
		10週	米とその料理法（１）	米の料理法と地域的特性との関連について説明できる。
		11週	米とその料理法（２）	米の料理法の発展・伝播の過程について説明できる。
		12週	もち文化（１）	もち利用の地域的特性について説明できる。
		13週	もち文化（２）	アジア諸地域のもち文化の特性について説明できる。
		14週	照葉樹林文化（１）	照葉樹林地域の地理的特性と文化的特色について説明できる。
		15週	期末試験	1～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	期末試験内容についての解説	期末試験の内容を理解する。
後期	3rdQ	1週	照葉樹林文化（２）	照葉樹林文化の諸要素について地域的特性を説明できる。
		2週	照葉樹林文化（３）	照葉樹林文化の諸要素について地域的特性を説明できる。
		3週	麦文化とその伝播	麦の栽培地域の地理的特性と料理法の変遷について説明できる。
		4週	麦の料理法～パン（１）	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。
		5週	麦の料理法～パン（２）	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。
		6週	麦の料理法～パン（３）	世界各地のパンの種類と地域的特性について説明できる。
		7週	麦の料理法～麺（１）	麺の系列と伝播地域の過程について説明できる。
		8週	麦の料理法～麺（２）	世界各地の麺文化の特色について説明できる。

	4thQ	9週	麦の料理法～麺（３）	世界各地の麺文化の特色について説明できる。
		10週	麦の料理法～麺（４）	世界各地の麺文化の特色について説明できる。
		11週	世界の乳利用（１）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		12週	世界の乳利用（２）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		13週	世界の乳利用（３）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		14週	世界の乳利用（４）	世界各地のミルクの利用形態について説明できる。
		15週	まとめ	
		16週	定期試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経済学（社会選択）

科目基礎情報

科目番号	0117	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	総合科学科	対象学年	5
開設期	前期・後期	週時間数	4
教科書/教材	使用しない		
担当教員	吉村 英俊,福井 直人		

到達目標

1）資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。
2）現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。
3）株式会社ないし企業経営のしくみ、およびその今日的動向について、理論と現実の双方を理解できる。
4）地域・国内・海外の経済情勢を踏まえたうえで、今後の経済や経営のあり方について自分なりの意見を主張することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について正しく理解できる。	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割についておおまかに理解できる。	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できない。
評価項目2	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて正しく解できる。	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについておおまかに解できる。	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて解できない。
評価項目3	経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報を適切に理解できる。	経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報をほぼ理解できる。	経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報を適切に理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
準学士課程の教育目標 F③ 技術者としての役割と責任を認識できる。
準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

教育方法等

概要	技術者においては、自らの専門知識を活かすために、経済や経営、法律などの社会科学に関する知識を習得する必要がある。 本授業では、経済・経営に関する基礎的知識を学び、現在国内外で繰り広げられている経済情勢を理解し、説明できるようにする。
授業の進め方・方法	とくに基礎知識は必要としないが、本授業を機会に新聞やニュースを見るように心掛けて欲しい。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	
			公民	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
			地歴・公民	環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。	2	

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100